

平成28年度第2回（社会福祉学・社会学・教育学・統計学）グループ合同委員会議事概要
社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会
CCC（社会学・教育学・統計学）グループ運営委員会

- I. 日 時 : 平成28年10月1日（土）10:00～12:00
II. 場 所 : アルカディア市ヶ谷(私学会館)7階 雲取
III. 出席者 : 社会福祉学FD/ICT活用研究委員会 山路委員長、天野委員、
CCC社会学グループ運営委員会 土屋委員、干川委員
CCC教育学グループ運営委員会 三尾委員、竹熊委員
CCC統計学グループ運営委員会 竹内委員、村上委員
事務局 井端事務局長、森下主幹、中村事務局員

IV. 議事概要

社会福祉学の山路委員長が進行役座長となり、分野連携アクティブ・ラーニング対話集会の開催内容について、前回(第1回合同委員会)の協議内容と、委員から新たに提出された「分野横断型教育モデルの構想メモ」について検討し、開催要項の作成、対話集会の進め方について議論を行った。

1. 対話集会での意見交換のテーマと話題提供について

意見交換のテーマとして前回委員会では、「分野を越えた連携教育」を取り上げ、「災害対策、復興支援、地域支援などを共通の話題とした分野横断の連携教育」、「ICTを活用した分野横断型教育モデルの連携教育のモデルの提案」などが議論され、新たに提出された以下の分野横断型教育モデルの構想メモ（資料②③④）についても検討がなされた。

- ・干川委員：大災害を迎え撃つ「学問分野の連携と学知結集の試み」
(災害対策における活動主体毎の時間的段階別の係わり合いや、復興への連携体制)
- ・竹熊委員：災害対策、復興支援、地域再生などを題材とした分野横断型教育モデルの構想メモ
(緊急支援のボランティア活動から学生が得られるものと、課題)
- ・竹内委員：災害対策、復興支援、地域再生などを題材とした分野横断型教育モデル
(専門分野横断型の学生チームによるPBL)

主な意見交換の概要：

- ・アクティブ・ラーニングにおいて「知識の定着・確認」まではなんとなく出来ている気がするが、次の段階である、社会で活躍する上で必要な「知識の活用・創造」のために自分で考える力をつける教育までには必ずしも至っていないのではないかと。この教育こそが今後予想される職業教育大学との違いではないかと。
- ・(アクティブ・ラーニングがうまくいかない理由には)一般の教員にアクティブ・ラーニングの経験が足りないことがあるのではないかと。教員自身に演習があっても良いのではないかと。
- ・専門教育では、学問をするのではなく国家試験対策となっている面があり、改めて大学(教員)が本来目指すべき(学生自身に考えさせる)教育モデルを考えてみることは非常に重要ではないかと。
- ・教員はあまりタッチせず、あくまで学生に考えさせることが大切であり、その過程で新たな課題が生じたら、またそれを自分たちで解決していくという経験を積ませることが重要。
- ・地域包括ケアや多職種連携ケアなど現場で行っていることが大学では出来ていない。
- ・大学としても正規科目でないボランティア活動や社会連携のような学生の活動をどう支援し、単位との関係をどう評価していくかを考えること、問題提起することなどが大事ではないかと。

(1) 意見交換のテーマ

意見を踏まえて意見交換のテーマを以下のように決定した。

課題を発見し、課題解決に向けた学びを主体的・協働的・創造的に展開していくアクティブ・ラーニングの手法と、それを実現していくための授業運営の工夫と組織的に推進していくための教学マネジメントの工夫について下記のテーマで意見交換を行う。

〈アクティブ・ラーニング〉

- ・知識の定着・確認を目指したアクティブ・ラーニング効果の振り返り
- ・知識の活用・創造を目指したアクティブ・ラーニング
- ・知識の活用・創造を学修する評価方法（ルーブリック・ピア評価・第三者評価など）

〈教学マネジメント〉

- ・授業の可視化
- ・学生の教室外活動の可視化と評価
- ・学位プログラム中心の科目編成に向けた課題

(2) 話題提供

話題提供を以下のように決定した。

① 今までのアクティブ・ラーニング体験の振り返り

山地 克文 氏（皇學館大学 現代日本社会学部）

竹熊 真波 氏（筑紫女学館大学 文学部）

竹内 光悦 氏（実践女子大学 人間社会学部）

② 「災害対策・復興支援・地域再生」をテーマにした分野横断型教育モデルの提案

干川 剛史 氏（大妻女子大学 人間関係学部）

竹内 光悦 氏（実践女子大学 人間社会学部）

(3) 開催日時と場所

開催日時：平成28年12月11日（日）14:00～17:00

開催場所：早稲田大学にて検討いただき、早稲田キャンパス3号館にて決定した。

V. 今後の予定

今回は対話集会とし、当日、事前打合せ会を実施することにした。